

第23回全退教 四国ブロック 交流集会三高知

橋元陽一

今年徳島開催が困難となり、高知市退教が受けて10月28日・29日を高知市高知会館、主会場に開催され、高退協からは12名が参加しました。28日午後は、第1分科会「平和と教育・暮らしを守る」のテーマで、地域での活動を交流し合いました。第2分科会は「歌う会」で童謡や愛唱歌、世界の民謡、平和と働く者の歌など、島本聡さんもバイオリン伴奏で参加し、2時間を超えて歌い続け、愉快なひとときとなりました。第3分科会は「自由民権記念館の見学」で、県外参加者が多く、館長の詳細な説明と土佐の自由民権運動の歴史に、関心を高く抱かれ、大変好評でした。

夜の交流懇親会は、安芸チンドン倶楽部のチンドンで幕開け、軽快な鐘の音と、絶妙な喋りにおひねりが飛び交い、会場が一気に盛り上がりました。続いて参加団体がそれぞれ出し物を披露し合い、高退協は井上徳治さんを中心に「シバテン」踊りを披露し、会場を沸かせました。



西プロで発言する橋元さん

高知高の参加6組織からの、一年間の活動報告に続いて、「草の家設立と活動について」と題して、平和資料館・草の家館長の岡村正弘さんが記念講演を行い、植村浩の反戦を費した生きざまや草の家の活動を紹介されました。また今年、高知県退教が発案者となり、「安保法制の採決強行に抗議し、同法制の廃止を要求します。」の決議文を交流会参加者一同で採択し、安倍首相に送付しました。

最後の訪問は、キリンビール岡山工場です。ホップの香りも試飲も心地よく、旅程の始めも中ほど、終わりも良しの思いで高知に無事着き、喜んだことでした。

今年親睦旅行は、人数の心配もありましたが、みなさん方の配慮やご協力で無事に、また楽しく終わることができました。バスの中では、別役さん特製の親睦旅行歌集から懐かしい歌の合唱もでき、少し青春の思い出に浸りました。

写真は、浜田隆史さんにいっぱい撮っていただき、記念になりました。

また二十九日の望年会には、浜田昌俊さんがパンフレットや写真などを使って「親睦旅行の思い出」を作成し展示され、話題になりました。

係も、来年度の企画に向け、今年度の反省や行きたい場所、時期のことなど早お知らせし、募集していきたいと考えています。来年も楽しく、思い出に残る親睦旅行にしていきたいのでよろしくお祈りします。

「気持ちもリフレッシュ」 親睦旅行

田中正

恒例の高退協親睦旅行が、十一月五日六日に実施されました。参加者一同、日常の生活を忘れ、とっでもリフレッシュしました。

一日目は、勝山の街並みを散策、楽しみました。さまざまな「のれん」が一軒一軒飾られていました。町の風情のアップと町づくりにかける住民の思いが伝わってきます。続いて神庭の滝を訪れました。多くのサルには、びっくりしましたが、滔々と流れ落ちる水の豪快さに「さすが名瀑」とうなりました。この日は、湯郷温泉に宿泊、露天風呂を楽しみ、おいしい料理に舌鼓を打ちました。

二日目は、いよいよお目当ての姫路城見学です。国宝に指定され、また二十年前に世界遺産に登録された五重六階の天守閣はリニューアルされ、さらに白く美しく壮大になって私たちの前に姿を現してくれました。階段が多く、急だったこと、見学者が本当に多かったこと（学芸高校の生徒さんもいました）でした。ガイドさんも集合



す潮を稿こでし進にてて潮き浦てに満く面大関す頼風流は昔ますき去り
す時置ものはたみ東さ潮待へ輛乗のっ潮は行方ら下でがとの舟
でく筆原、まへら

原爆を落としたのは誰だ 全退教旅行 三谷隆彦

11月の全退教旅行に全国から、広島県へ91名集まり、平和公園・宮島・呉・竹原・尾道・鞆の浦などを訪れました。訪問した各地で地元退教が大勢加わり、戦争や教育と絡めて説明してくださりました。

原子爆弾は広島市上空約600mで破裂し、地上では3,000℃で秒速440mの爆風が吹きまわした。百貫の石碑も吹飛ばされました。

たまたま地下室に居た人は助かりました。死者約14万人です。瞬時にして世界史上最大の殺人です。中学生6,000人、死亡、身元不明の遺骨7万柱とか平和公園には書かれています。すけれども、全退教交流会では「誰が原子爆弾を落としたのか書かれていない」との指摘がありました。なるほど、そう言われてみれば、「米軍」ということは、分かり切っているから、明示しないのでしょうか。

宮島では丁度干潮時で、赤い鳥居に触るところまで行きました。高さ16m、横24mです。

その鳥居の屋根には7トンの石を置き鳥居を固定しています。土産物店中庭の1坪の池に鯉が10匹ほど泳いでいました。そのうちの1匹は赤白で長さ1m重さ10キログラムあり、値段は150万円です。同程度の大きさでも黄色1色は100万円です。全部で500万円するそうです。同行の米寿に近い女性とコイを語りました。

呉では戦艦「大和」の造船所を丘の上から見ました。戦艦の大きさが敵には見えないように隠した屋根と壁が錆びてはいるが現在も残っています。さらに坂口喜一郎について広島歴教協の是恒高志氏による講演がありました。坂口は水兵に謄写版刷り反戦ピラ「筆ゆるマスト」を配布しました。坂口は軍法会議にかけられ海軍から追放になりました。その後も反戦活動が続いて憲兵に逮捕され、未決勾留400日の末に1933年12月、広島刑務所で獄死しました。享年31歳でした。

鞆の浦へ40余年ぶりに行きました。朝鮮通信使も立ち寄った江戸時代山陽で最も栄えた港町です。瀬戸内海は満潮時に紀伊水道と豊後水道の東西から潮が押し寄せ、鞆の浦でぶつかります。干潮は逆に引